

News Letter

2018
Winter issue

平成30年11月27日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



第69回大会の会場となった徳島大学 常三島キャンパス

写真出所：徳島大学HP <http://www.tokushima-u.ac.jp/about/publicity/>

日本体育学会

体育社会学専門領域

事務局：

〒352-8558

埼玉県新座市北野 1-2-26

立教大学コミュニティ福祉学部

松尾哲矢 研究室内

Tel & Fax: 048-471-7345

E-mail: tmatsuo@rikkyo.ac.jp

< 目 次 >

シンポジウム傍聴記	1
2018年度専門領域総会報告	3
2017年度活動報告	3
2018年度活動計画	7
総会議事録	12
機関誌「年報 体育社会学」について	15
学生研究奨励賞 受賞者の声	17
事務局より	19

シンポジウム「体育の未来予想図と社会学的想像力」傍聴記

千葉 直樹（北翔大学）

内田氏は学校における部活動関連の事故について紹介し、リスク管理という視点から部活動の問題点を指摘した。特に、部活動の制度設計に問題があることを強調していた。本来、教員は教科の専門家であり、部活動の指導は専門性のないスポーツ種目に関してボランティアで顧問として関わってきた。部活動の指導のために教員が超過勤務を強いられている状況のおかしさについて指摘した。こうした状況のなかで、文部科学省も3月に部活動に関する方針を発表し、週2回の休養日と2時間程度という活動時間を提起した。内田氏は、部活動は週3日程度の楽しみ志向の活動とし、プロや一流競技者を目指す生徒は、地域に民間のスポーツクラブを作り、お金を払って活動するような体制にすることを提案した。

松田氏はAI（Artificial Intelligence:人工知能）時代における遊びと体育の問題について講演を行った。講演の内容は、車の運転における「遊び」を表現するための図を示し、遊びの重要性を説明していた。松田先生の巧みな話術で参加者の笑いを取りながら発表を行ったが、発表時間を超過しAIの問題について十分に紹介することができなかった。そのために質疑の最初に、AI時代における体育の意味について簡単に説明した。特に井上智洋（2016）『人工知能と経済の未来』（文春文庫）の内容を簡単に紹介し、AI時代になると多くの肉体労働や義務労働が機械に代替されることでなくなると言われ、より機械の重要性が高まっていくという。その中でeスポーツなどがスポーツの範疇に入ることが予測され、テレビゲームを通してスポーツをする状況が生まれる。テレビゲームにおける活動は電子メディアによる身体拡張として理解され、スクリーン上のアバターと操作する身体が同期する状態が生まれる。このようなAI時代において、体育はどのような関わりを持つのかということが問題になると提起された。

質疑において、司会の菊氏は3名のシンポジストの講演に対する総評を行った。なぜ部活動の制度設計がなされなかったのかという質問に対して、内田氏は、部活動の指導が楽しいために現在の体制が維持されてきたと説明した。しかし、部活動が好き嫌いに関係なく超過勤務を続ければ過労死するという問題を指摘した。体育は教育の一つであり、その中で崇高な目標が掲げられ、ベネフィット（利益）が追求される。その中でリスクが軽視されてしまうことが問題であると指摘した。

さらに、白井氏は部活動における勝利至上主義による加熱の問題が言及されるが、受験勉強における加熱の問題についても指摘した。部活動も受験も目標が曖昧になっており、人間形成という目標があやふやになっており、結果のみを重視する傾向があると解説した。

菊氏は、部活とコンピテンシー（成果を出し続ける行動特性）の関係についてシンポジストに質問を投げかけた。内田氏はスポーツでは成果がわかりやすく、評価とコンピテンシーはリンクすると発言した。松田氏は、AI時代においてコンテンツとコンピテンシーについて発言し、コンピューターはフレームを作ることが難しいという課題を指摘した。つまり、子どもと人工知能が将棋をするときに、子どもの実力に合わせて手加減することが難しいという具体例をあげていた。

菊氏はオックスフォード辞典によるとスポーツには突然変異や暴走という意味があると発言し、スポーツには魅力があるから暴走するのではないかという考えを提起した。それに対して、白井氏はある高校の総合学習の授業を観察すると、「歴史は科学か」というテーマに対して生徒が議論を積極的に続け、授業時間

が終わっても自発的に議論を続ける例をあげ、学習においても部活動のように自発的に逸脱する場合があっても良いのではないかと発言した。

松田氏は加減の良さが失われてきており、自発的な楽しみの中でルールが作られると述べた。内田氏は、この問題を難しいと発言した。それは学校での補修問題も学習指導要領には何も規定されておらず、勉強に役立つからそれで良いかというような位置づけになっており、議論化できていないと述べた。内田氏は、教員という労働者として制度内と制度外という視点が曖昧であることを指摘した。白井氏は、学校での宿題についても明確にどれだけ出すかという基準が決まっておらず問題であると指摘した。

フロアからの質問の中で、愛媛大学の大学院生は、内田氏の発表の中で部活動と民間のクラブに二つに分けるといふ考えが提起されたが、民間のクラブでは高体連に加盟できないという問題と、一流競技者と初心者が一緒に活動し学び合う良さが失われることについて質問した。内田氏は、中体連や高体連が変わらなければこの問題は解消しないということを示した。ある程度体育連盟の利権を温存したまま民間のクラブが参加できる大会に参加できるようにすれば良いと回答した。また一流競技者と初心者の交流は体育の授業内で行えば良いと述べた。

東京学芸大学の丸山氏は、内田氏に対して部活動を制度化（練習時間の制約など）することのリスクは何かと質問をした。内田氏は、活動時間や大会参加を制約することで加熱しない設計になると指摘した。球技大会は年間1回だけだから盛り上がるのではないかと発言した。松田氏は、「人生は遊びだ」というプラトンの考えを引用し、7日間遊んでも良いという考えを表明した。

学習院大学の大学院生は、素人の事故が起る問題について内田氏に質問した。内田氏は、制度設計がないから運動部で事故が多発すると指摘した。白井氏は、部活動の目標が明確に示されていないことが問題であり、全体的に頑張って勝利志向であると考えられる。また部活動を指導したくて教員になる人がたくさんいることを指摘した。松田氏は、20代の教師が運動部の顧問になり、専門性がないために苦勞することに言及した。

菊氏は近代スポーツの誕生に際して暴力は楽しみを延長するために抑止されてきたと発言し、リーグ戦の制度などが発展してきたと述べた。1940年代に日本の学校では教員組合が力を持っていたが、解体され、孤立し、現在ではSNSを通して部活動の課題が集約化されるようになった。菊氏は3名の意見をテーマに合わせる努力をして、シンポジウムをまとめた。

シンポジウムを聞いて、2030年にAIが普及するようになると、部活動の指導はAIが担当するようになるのだろうかという疑問を抱いた。もちろん、スポーツ指導のような実演を伴い、細かな指導を必要とする仕事に関してはAIが担えるようになっているか不透明であるが、そうなれば部活動の指導に伴う教員の超過勤務という問題は解消しているかもしれない。このような体育に関わる未来予想図についてシンポジストにもう少し詳しく聞いてみたかった。

2018年度(第69回大会)専門領域総会報告

日 時：平成30(2018)年8月25日 土曜日 12時40分～13時40分

場 所：徳島大学常三島キャンパス 教養教育4号館301

出席者数：28名

● 総会配付資料

I. 2017年度 活動報告

1. 研究委員会報告

1) 日本体育学会第68回大会一般研究発表

一般研究発表40演題(口頭発表36演題,ポスター発表4演題)

2) 第68回大会専門領域キーノートレクチャー

日 時：2017年9月9日(土) 13:00～14:00

会 場：静岡大学共通教育 A301

テーマ：「地域スポーツのこれまで、そして、これから」

演 者：中島信博(東北大学名誉教授)

3) 第68回大会専門領域シンポジウム

日 時：2017年9月9日(土) 14:15～16:45

会 場：静岡大学共通教育 A301

テーマ：「2020年東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツ環境を考える②」

ー総合型地域スポーツクラブから見る地域スポーツの可能性と未来ー

演 者：関根正敏(作新学院大学)

地域スポーツの視点から見た現在のスポーツ政策：

総合型クラブ政策にみられる理念と実態の乖離について

伊倉晶子(志木市放課後子ども教室「宗岡りんくす」市民運営組織代表

共栄大学客員准教授)

市民が当事者となりえる仕組み：総合型クラブ・放課後子ども教室

高田昭彦(成蹊大学名誉教授)

地域スポーツの「地域」とは何か?：コミュニティづくりにおけるスポーツの役割

コメンテーター：中島信博(東北大学名誉教授)

司 会：清水諭(筑波大学)・石坂友司(奈良女子大学)

4) 第68回大会専門領域研究会

日 時：2017年9月7日(木) 13:00～17:00

会 場：静岡駅前会議室 B301

プログラム：13:30～13:45

代表あいさつおよび趣旨説明

菊幸一（筑波大学）

13:50～15:20 パネルディスカッション

中澤篤史（早稲田大学）

観点（1）体育社会学における「学校」と「体育」—一部活動を中心に—

松田恵示（東京学芸大学）

観点（2）体育社会学における「学校」と「体育」—学習指導を中心に—

西山哲郎（関西大学）

観点（3）社会学（スポーツ社会学）における「体育」と「スポーツ」

阿部耕也（静岡大学）

観点（4）教育学（教育社会学）における「体育」と「スポーツ」

司会：石坂友司（奈良女子大学）・原祐一（岡山大学）

15:20～15:30 休憩

15:30～17:00 討論会

5) シンポジウム報告書のホームページでの公開（2017年12月7日）

2. 編集委員会報告

1) 体育社会学専門領域一般発表論文集 第25号 450部発行（2017年8月20日発行）

3. 学生研究奨励賞選考委員会報告

1) 学生研究奨励賞の選考

中山健二郎（立教大学大学院）

高校野球における「カーニヴァル」的メディア受容態度と伝統的「物語」の再生産に関する研究

4. 広報委員会報告

1) ニュースレターの発行

News Letter 2017 Summer issue（2017年8月5日）

News Letter 2017 Winter issue（2017年11月22日）

2) 過去のシンポジウム報告書のホームページでの公開（2017年1月6日，2月7日）

3) シンポジウム報告書のホームページでの公開（2017年12月7日）

4) ニュースレターのホームページでの公開

5. 論文集検討プロジェクト報告

第1回 2017年9月10日（静岡大学）

第2回 2018年2月16日（立教大学）

6. 評議員会報告

- 第1回 書面会議 2017年6月27日～7月3日
委員候補者案の審議（政策検討・若手研究者）について
- 第2回 2017年9月8日
日本体育学会第68回大会時（静岡大学）
- 第3回 書面会議 2017年10月23日～10月28日
2019年度-2020年度代議員選挙 選挙管理委員案について
- 第4回 書面会議 2018年2月7日～2月16日
2019年度体育社会学専門領域名誉会員の推薦について
- 第5回 2018年3月18日
日本スポーツ社会学会第27回大会（順天堂大学）終了後

7. 事務局報告

- 1) 事務局会議
- 2) 専門領域の会員数

会員数 372 人（2018年2月21日現在）

II. 2017年度 決算報告

収入の部				
項目	予算額(A)	決算額(B)	差額(B-A)	備考
会費 (学会本部より)	1,150,000	1,161,000	11,000	
会費 (事務局直接入金)	0	0	0	
学会補助金	105,195	105,195	0	
選挙用通信費(学会本部より)	0	44,640	44,640	
論文集等販売	0	0	0	
前期繰越金	1,955,160	1,955,160	0	
収入合計	3,210,355	3,265,995	55,640	

支出の部				
項目	予算額(A)	決算額(B)	差額(A-B)	
通信・運搬費	100,000	50,280	49,720	
選挙用通信費	0	44,640	-44,640	
事務・用品費	20,000	24,860	-4,860	
旅費・交通費	200,000	67,120	132,880	
論文集印刷費	400,000	338,985	61,015	
ホームページ	100,000	21,600	78,400	
会議費	100,000	50,001	49,999	
謝金	200,000	204,000	-4,000	
アルバイト費	100,000	19,600	80,400	
学生研究奨励賞	30,000	30,000	0	
業務委託費	97,000	94,986	2,014	
手数料	3,000	2,592	408	
学会機関誌創刊準備金	500,000	0	500,000	
予備費	1,360,355	0	1,360,355	
次期繰越金	0	2,307,963	-2,307,963	
支出合計	3,210,355	3,256,627	-46,272	

単年度(2017年度)収支差額

収入	1,310,835
支出	948,664
差額	362,171

会計監査報告

日本体育学会体育社会学専門領域2017年度会計は、帳簿、領収書、郵貯振込控え等、すべて適正に処理されていることを認めます。


平成30年 7月 2日

監査

新井野 洋一 

平成30年 8月 6日

監査

日下 裕弘 

Ⅲ. 2018年度 活動計画

1. 研究委員会

1) 日本体育学会第69回大会 一般研究発表

一般研究発表 36 演題 (口頭発表 32 演題, ポスター発表 4 演題)

2) 日本体育学会第69回大会専門領域シンポジウム

1. 日時:平成30年8月25日(土) 9:00～11:50

2. 会場:徳島大学常三島キャンパス 4号館 301

3. テーマ:体育の未来予想図と社会学的想像力

4. 司会:菊 幸一 (筑波大学)

5. 演者:白井 俊 (文部科学省)

「コンピテンシー育成と身体性～ OECD/Education2030 における議論を踏まえて」
内田 良 (名古屋大学)

「運動部活動の展望 —— 制度設計なき活動の現状から考える」
松田 恵示 (東京学芸大学)

「人工知能時代の体育と遊び — 『生きることを面白くする力』の創造—」

3) 日本体育学会第69回大会専門領域研究会

1. 日時 平成30年8月23日(木) 13:00～16:00 懇親会 17:30～19:30

2. 場所 とくぎんトモニプラザ (徳島県青少年センター) 会議室2

3. テーマ 教員の働き方改革におけるスポーツ活動の問題と保健体育教師のアイデンティティ

4. 司会 高橋 義雄 (筑波大学)

5. 演者 下竹 亮志 (筑波大学)

「運動部活動の指導者は何を語ってきたのか？」
谷口 勇一 (大分大学)

「部活動と総合型地域スポーツクラブの連携『失敗』からみえた教員文化」
石坂 友司 (奈良女子大学)

「学校のスポーツ活動が地域や社会空間に与える影響と教師の社会的機能(仮)」

6. コメンテーター 北村 尚浩 (鹿屋体育大学)・原 祐一 (岡山大学)

4) シンポジウム報告書のホームページでの公開

5) 専門領域研究会報告書のホームページでの公開

2. 編集委員会

1) 発表論文集 第26号 冊子体としては最終 420部発行 (2018年8月3日発行)

3. 学生研究奨励賞選考委員会

1) 学生研究奨励賞の選考

4. 広報委員会

1) ニュースレターのメール通知およびホームページでの公開

News Letter 2018 Summer issue (8月)

News Letter 2018 Winter issue (12月)

2) ホームページの更新

2018年5月19日 専門領域研究会(8月23日)のお知らせ

2018年6月18日 諸規程一覧の更新

5. 論文集検討プロジェクト

2018年8月16日 一ツ橋印刷株式会社との打ち合わせ

6. 評議員会

第1回評議員会【書面会議】

IJSHS(国際誌)編集委員増員の件(3/29-4/3)

第2回評議員会

2018年8月24日 日本体育学会第69回大会1日目

第3回評議員会

2019年3月10日 日本スポーツ社会学会(福岡大学)終了後

※その他, 必要に応じて書面会議を実施する.

7. 事務局

1) 事務局会議

第1回 2018年8月24日 徳島大学

2) 専門領域の会員数

会員数 382人 (2018年7月20日現在)

3) その他

8. 次期(2019-2020年度)役員改選

1) 選挙管理委員 吉田毅, 海老島均

2) スケジュール

2018年11月中旬~下旬 正会員へ投票用紙の発送

2018年12月中旬~下旬 投票〆切

2019年1月中旬 開票

IV. 2018年度 予算

収入の部

項目	2017年度 予算額	2017年度 決算額(A)	2018年度 予算額(B)
会費(学会本部より)	1,150,000	1,161,000	1,100,000
会費(事務局直接入金)	0	0	0
学会補助金	105,195	105,195	105,195
選挙用通信費(学会本部より)	0	44,640	
論文集等販売	0	0	5,000
前期繰越金	1,955,160	1,955,160	2,307,963
収入合計	3,210,355	3,265,995	3,518,158

支出の部

項目	2017年度 予算額	2017年度 決算額(A)	2018年度 予算額(B)
通信・運搬費	100,000	50,280	100,000
選挙用通信費	0	44,640	100,000
事務・用品費	20,000	24,860	25,000
旅費・交通費	200,000	67,120	150,000
論文集印刷費	400,000	338,985	400,000
ホームページ	100,000	21,600	30,000
会議費	100,000	50,001	100,000
謝金	200,000	204,000	250,000
アルバイト費	100,000	19,600	50,000
学生研究奨励賞	30,000	30,000	30,000
業務委託費	97,000	94,986	100,000
手数料	3,000	2,592	3,000
学会機関誌創刊準備金	500,000	0	500,000
予備費	1,360,355	0	1,680,158
次期繰越金	0	2,307,963	0
支出合計(小計+繰越金)	3,210,355	3,256,627	3,518,158

V. 会則等の改正について

会則名	ページ数	削除前	削除後	削除内容
体育社会学 専門領域 会則	2	(第1章 名称) 第1条 本 専門領域は、 <u>一般社団法人</u> 日 本体育学会定款第36条および 専門領域設置に関する規程に 基づいて設立されたもので、 体育社会学専門領域（以下、 専門領域と言う）と称する。	(第1章 名称) 第1条 本 専門領域は、日本体育学会定 款第36条および専門領域設 置に関する規程に基づいて 設立されたもので、体育社 会学専門領域（以下、専門領 域と言う）と称する。	一般社団法人を 削除
体育社会学 専門領域 委員会規程	5	(目的) 第1条 本規程は <u>一般社団法人</u> 日本体育学会 体育社会学専門領域の委員会 の設置について必要な事項 を定める。	(目的) 第1条 本規程 は日本体育学会体育社会学 専門領域の委員会の設置に ついて必要な事項を定める。	一般社団法人を 削除
体育社会学 専門領域 発表論文集 投稿規定	18	(目的) 1. 体育社会学専門 領域発表論文集（以下、本誌 と言う）は、 <u>一般社団法人</u> 日 本体育学会体育社会学専門領 域（以下、本領域と言う）の 学会大会における研究内容を 広く公表するために発行する。	(目的) 1. 体育社会学専門 領域発表論文集（以下、本誌 と言う）は、日本体育学会 体育社会学専門領域（以下、 本領域と言う）の学会大会に おける研究内容を広く公表す るために発行する。	一般社団法人を 削除
体育社会学 専門領域賞 規程	20	(目的) 第1条 <u>(一社)</u> 日 本体育学会体育社会学専門領 域(以下「本領域」という)は、 会員の優れた活動を顕彰かつ 奨励することを目的として 体育社会学専門領域賞を設け る。	(目的) 第1条 日本体育 学会体育社会学専門領域(以 下「本領域」という)は、会 員の優れた活動を顕彰かつ 奨励することを目的として 体育社会学専門領域賞を設 ける。	(一社)を削除
体育社会学 専門領域賞 選考規程	21	(目的) 第1条 <u>(一社)</u> 日 本体育学会体育社会学専門領 域は、体育社会学分野におけ る正会員の優れた活動を顕彰 かつ奨励することを目的とし て、体育社会学専門領域賞(以 下、専門領域賞と言う)を授 与する。	(目的) 第1条 日本体育 学会体育社会学専門領域は、 体育社会学分野における正 会員の優れた活動を顕彰か つ奨励することを目的とし て、体育社会学専門領域賞 (以下、専門領域賞と言う) を授与する。	(一社)を削除

VI. 「年報 体育社会学」投稿規程および発表抄録集

1. 「年報 体育社会学」投稿規程（案）
2. 「年報 体育社会学」投稿の手引き
3. 「年報 体育社会学」投稿倫理規程
4. 「年報 体育社会学」論文審査要領
5. 「年報 体育社会学」論文審査に関する申し合わせ
6. 機関誌編集委員会 運営細則
7. 体育社会学専門領域 発表抄録集 投稿規程
8. 体育社会学専門領域 発表抄録集 執筆要項

上記、1から8の資料は、体育社会学専門領域 web サイトからダウンロードが可能です。是非、ご活用下さい。

VII. 「専門領域賞」審査スケジュール

(1) 審査委員候補者推薦委員会

菊 幸一，山口 泰雄，松尾 哲矢，日下 裕弘，新井野 洋一，北村 薫，前田 博子。

推薦委員会は審査委員7名を選出し，委員候補者から内諾をもらう（2019年3月まで）

- (2) 2018年9月以降 会員へ「専門領域賞」推薦のお願いメール（2016年，2017年，2018年の3年間に発表された研究等）
- (3) 2019年3月 評議員会 専門領域賞審査委員会案（7名）の審議・承認
- (4) 2019年5月末 「専門領域賞」推薦〆切 提出先：事務局
- (5) 2019年6月～ 審査委員会による審査スタート
- (6) 2019年8月 審査結果の報告書を提出 提出先：事務局
- (7) 2019年9月 日本体育学会第70回大会（慶應義塾大学）の評議員会にて審査結果の報告
- (8) 2019年9月 日本体育学会第70回大会（慶應義塾大学）の総会にて受賞者に授与

VIII. 機関誌編集委員

1. 委員長（代表による推薦）
2. 清水諭 創刊準備委員会 委員長
3. 水上博司 創刊準備委員会
4. 工藤康宏 創刊準備委員会
5. 渡正 創刊準備委員会
6. 評議員①
7. 評議員②
8. 評議員③
9. 評議員④
10. 評議員⑤

※ 評議員は①から⑤までの5名以内

IX. その他

● 総会議事録

※ 議事録中に記載されているページ数は、総会時に配布した資料のページ数となります。

I. 2017年度 活動報告

水上事務局次長より、資料1ページから3ページに基づいて、委員会活動の報告がなされ、異議なく承認された。なお、配布資料3ページの7.事務局報告の2)専門領域の会員数は、本年4月に学会本部によって実施された代議員（2019-2020）選挙の選挙人数であったことも併せて報告された。

II. 2017年度 決算報告

依田会計担当より、資料4ページに基づいて2017年度決算報告がなされた。また、松尾事務局長より収入の部にある選挙用通信費の44,640円は、学会本部から代議員選挙の郵送費（120円×372名=44,640円）であることが併せて報告された。

会計監査報告については、日下監事と新井野監事が欠席であったため報告委任を受けた松尾事務局長より監査報告がなされ、本決算案は異議なく承認された。

III. 2018年度 活動計画

2018年度活動計画は、各委員会委員長または委員長代理および事務局より、資料5ページと6ページに基づいて提案がなされ、異議なく承認された。

その後、一般発表に関わる次の報告と承認がなされた。

・発表日時の変更について

松尾事務局長より、第69回日本体育学会大会の一般発表の日時変更が、次の理由により特別に認められたことについて説明がなされた。その理由は、社会人大学院生の当該発表者が、事務局へ事前に学会1日目は勤務先の用務のため発表ができない旨を報告していたにもかかわらず、事務局サイドで事前の連絡を見落とし、当該発表者が割り振られた発表時間が学会1日目になっていたためである。このことについて代表より、原則学会期間中は、どの日時でも発表できるようにすることが発表者には求められるが、今後、増えることが想定される社会人大学院生に対しては、勤務先の用務により発表日時が限られてしまうので、事前に希望の発表日時を聞いておいて出来る限り配慮したかたちで発表日時を割り振るようにはどうか、という意見が出された。以上のような意見を受けて、今後評議員会において、対応策を検討させていただくことを提案し、異議なく承認された。

またこのことに関連して、台風21号の影響により発表辞退になった発表演題は、すでに事務局にてどの発表演題なのかを確認をしているが、他の専門領域でも発表辞退が相次いでいたとの情報があり、今後、発表辞退の演題一覧については、大会本部より専門領域事務局へ報告を受けることになっている旨が説明された。

IV. 2018年度 予算

依田会計担当より資料7ページを基に説明があり、2018年度予算案は異議なく承認された。

V. 会則等の改正について

水上事務局次長より資料 8 ページを基に、会則等の改正について説明があった。

具体的な内容は、学会の本部から文言に関する指摘があったため、会則等の条文に用いられている「一般社団法人」と「(一社)」という文言が削除されることが報告され、異議なく承認された。

VI. 「年報体育社会学」投稿規程および発表抄録集

創刊準備委員会の委員長代理の水上会員より資料の 9 ページから 24 ページのうち、「年報体育社会学投稿規程案 (10 ページから 12 ページ) と体育社会学専門領域発表抄録集投稿規程および体育社会学専門領域発表抄録集執筆要項 (23 ページと 24 ページ) の提案がなされた。その際、総会資料の 10 ページに差替資料が提示された。また、23 ページの原稿の分量について修正提案がその場でスライド提示され、この修正提案も併せて異議なく承認された。

修正提案(1) 年報体育社会学投稿規程案 10 ページ

(目的)

第 1 条 日本体育学会体育社会学専門領域 (以下「本専門領域」という) の機関誌 (「年報 体育社会学」という) 発行の事業を行うため、会則第 9 条第 2 項にもとづき本規程を設ける。

(種類)

第 2 条 論文の種類は学術論文 (査読つき: 原著論文, 研究資料, 事例報告), 学会大会報告 (本専門領域研究会, 学会大会企画, 一般発表演題一覧), 活動報告 (評議員会報告, 総会報告, 役員・各種委員会名簿), 事務局報告とする。投稿論文は本専門領域における完結した未発表のものであり, 他誌に投稿中でないものに限る。

なお, 日本体育学会大会等における口頭発表等 (抄録掲載内容を含む) や口頭発表等に用いた資料の内容を充実させた論文, あるいは各種研究助成金の交付を受けた研究をまとめた論文は, 投稿することができるものとする。

修正提案(2) 体育社会学専門領域 発表抄録集投稿規程 23 ページ

(原稿の分量)

修正前 4 枚以内とする → 修正後 2 ページ以上 4 ページ以内とする

修正前 6 ページ以上とする → 修正後 6 ページとする

出席会員からの質問および指摘とその回答は以下の通りである。

(1) 資料 13 ページの「事例研究」の誤りが指摘され, 「事例報告」に修正提案し, 異議なく承認された。

修正前 資料 13 ページ

投稿規程第 3 条に定められているように, 本誌に掲載される論文の種類には, 原著論文, 研究資料, 事例研究があります。また, 投稿規程第 4 条に定められているように, 投稿論文における使用言語は日本語に限られます。

修正提案(3) 資料 13 ページ

投稿規程第 3 条に定められているように、本誌に掲載される論文の種類には、原著論文、研究資料、事例報告があります。また、投稿規程第 4 条に定められているように、投稿論文における使用言語は日本語に限られます。

(2)「発表抄録集」への原稿執筆は義務であるかどうかの質問があり、このことについては義務ではないが、できるだけ執筆してもらうように会員へ周知する旨が確認された。

VII. 「専門領域賞」 審査スケジュール

松尾事務局長より資料 25 ページを基に、審査委員候補者推薦委員会と審査のスケジュールについて説明があり、異議なく承認された。

VIII. 機関誌編集委員会委員

松尾事務局長より資料 25 ページを基に、機関誌編集委員の委員は、次期選挙において新たな評議員会体制が決まってくるので選挙結果を受けて委員を最終決定していく旨の提案がなされ、異議なく承認された。

IX. その他

このたび体育社会学専門領域の査読付き研究誌として「年報 体育社会学」を発行することとなりました。1993（平成5）から2018（平成30）年まで継続した「体育社会学専門領域発表論文集」は、「体育社会学専門領域抄録集」（仮称）に変更し、いずれも紙媒体とwebデータ（PDF）によって公開をしております。つきましては、2018年10月1日より機関誌「年報 体育社会学」（創刊号）の投稿を受け付けましたので、下記の通りご案内いたします。「投稿論文の受付から学術雑誌の発行までの流れについて」とあわせてご参照ください。

投稿について

体育社会学専門領域ホームページより、下記の諸規程等をダウンロードして、内容をご確認の上、「年報体育社会学」受付係のメールアドレスへ投稿してください。

体育社会学専門領域 規程等一覧 URL <http://pesociology.jp/about/regulationsetc.html>

1. 投稿規程
2. 投稿の手引き
3. 投稿倫理規程
4. 論文審査要領
5. 論文審査に関する申し合わせ
6. 機関誌編集委員会 運営細則

・原稿の投稿先

一ツ橋印刷株式会社 年報体育社会学受付係

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11

E-mail : arspes@onebridge.co.jp

電話 : 03-5620-1950 FAX : 03-5620-1960

審査について

- ・2018年10月1日から12月31日の投稿原稿は、2019年1月1日以降、審査に廻しますので注意をしてください。
- ・2019年1月1日以降の投稿原稿は、ただちに査読者を決定し、投稿原稿を審査に廻します。

早期公開について

- ・採択された論文は、本専門領域のwebサイトにおいて早期公開します。
- ・2020年3月以降にはJ-stage上にて公開します。

創刊号の冊子発刊について

- ・2019年12月31日までに採択された投稿原稿は、2020年3月発刊の冊子体の創刊号に掲載します。

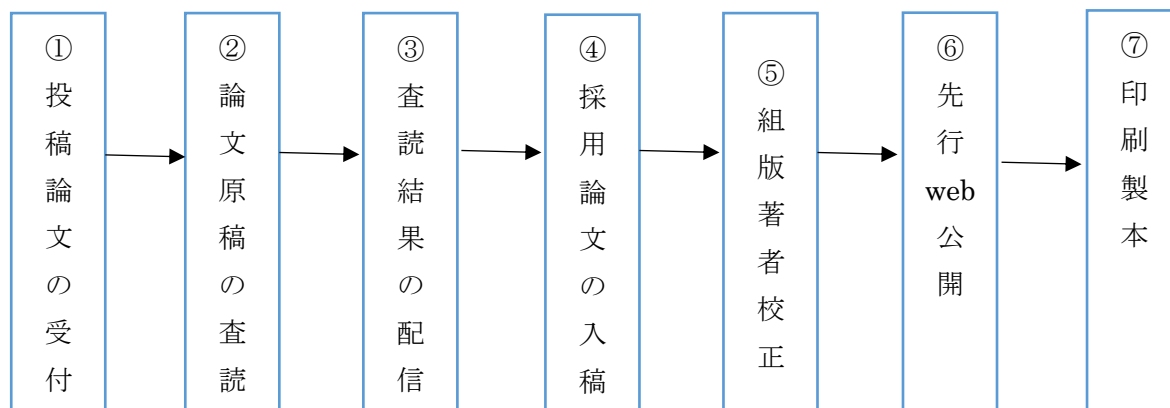
『年報 体育社会学』

投稿論文の受付から学術雑誌の発行までの流れについて

一ツ橋印刷株式会社

2020年3月「年報体育社会学」の創刊にあたり、以下に①投稿論文の受付から⑦印刷・製本のそれぞれの作業内容についてご説明致します。

<全体の流れ>



① 投稿論文の受付

創刊号に関する受付は2018年10月1日～2019年5月31日にかけてメールまたは郵送にて一ツ橋印刷にて受付致します。なお、入稿する際、投稿の手引きを一読の上、ご投稿ください。

<投稿論文の送付先>

郵送の場合：〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社 年報体育社会学受付係
メールの場合：arspes@onebridge.co.jp

原稿データについては「投稿の手引き：II.3 投稿」をご参照ください。

② 論文原稿の査読

創刊号に関する査読期間は投稿受付時～2019年12月31日までとし（投稿締め切りは2019年5月31日）、原則3名にて行われます。初投稿時の査読期間は約1ヵ月、再投稿時は約2週間となります。2019年12月31日以降論文が採用となった場合は、雑誌への印刷は次年度への掲載となりますが、webにて先行公開されます。

③ 査読結果の配信

メールまたは郵送にて著者へ査読結果を配信致します。

④ 採用原稿の入稿 ⑤組版著者校正

採用された論文は弊社にて組版・著者校正を致します。著者による確認・校正～修正・校了までの

期間は約 1 ヶ月となりますが、上記はあくまで目安となります。著者との校正については、メールを想定しておりますが、適宜（カラー印刷希望の際等）郵送（紙媒体）にて対応致します。

⑥ 先行 web 公開

著者校正後、校了となりました論文について先行 web 公開を致します。

web 公開につきましては冊子体へのモノクロ掲載依頼論文であっても写真等についてカラーにて掲載となります。冊子体については原則モノクロとなります（カラーをご希望の場合は著者による実費負担となります）。

⑦ 印刷・製本

掲載記事、論文が全て校了となりました後、刷版、印刷、製本に約 2 週間を頂戴しております。

<お問合せ>

一ツ橋印刷株式会社 年報体育社会学受付係

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11

E-mail:arspes@onebridge.co.jp

TEL: 03-5620-1950 FAX: 03-5620-1960

2018 年度（第 69 回大会）学生研究奨励賞 受賞者の声

「学生研究奨励賞」受賞によせて

中村真博（立教大学大学院 コミュニティ福祉学研究科 博士課程前期課程 2 年）

この度、日本体育学会第 69 回大会、体育社会学専門領域において「学生研究奨励賞」を賜うことができ、大変光栄に思っております。ご審査を頂きました審査委員会の皆様をはじめ、本学会大会関係者の皆様、研究のみならず生活面においてもご指導を賜っております松尾哲矢先生、ならびに様々な場でご助言、ご示唆を頂きました先生方、日頃から共に切磋琢磨しております松尾ゼミの皆様、本当に多くの方々に支えられ、研究に励むことができていることに感謝し、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

日本体育学会第 69 回大会においては、「障がい者スポーツにおける障がい者と健常者間の関係性の変容過程に関する研究-車椅子ソフトボールチーム内の相互作用に着目して-」という演題で口頭発表させていただきましたが、以下では、自身の経歴を含んだ研究の背景、発表内容、今後の研究活動に関して簡単に報告させていただきます。

私の障がい者スポーツに対する興味は、大学入学直後のオリエンテーションで車いすバスケットボールを体験したことに端を発しております。スポーツを通して障がい者に対するイメージが大きく変化し、その後も障がい者スポーツを通じ、障がい者から多くの学びを得ております。しかし、様々な場面で「共生

社会」という文言が発せられている現状があるにも関わらず、共生社会とは何か、障がい者と健常者は関係性を構築することができるのか、などについての研究はあまりなされていないことを知り、本研究を行うに至りました。

今回の発表では、障がい者と健常者がスポーツにおける「コートの中/外」での活動をともに行うことによる関係性の変容過程とその様相について、主に障がい者スポーツ特有の「配慮」の技法や「適度な距離感」を保つ方法という点に着目し明らかにすることを目的とし、分析枠組みを設定し、半構造化インタビューによって、車椅子ソフトボール選手から得られた語りを、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用い、分析しました。

分析の結果、12 概念とその関連から 3 カテゴリーを抽出することができ、選手たちは関係性の変容段階に応じ「他者」の「異質性」を自覚・理解・承認し、その変容過程では自身と他の選手との「距離」を自覚し、自己顕示・自己抑制しながら「配慮」を行うという、繊細さと自制を伴う技法を用いていることが示唆されました。さらには、それらを基盤とし、障がい選手の障がいを「イジる」という、一見タブーとみなされていることをあえて行い、障がいを笑いに昇華し、「異質性」を相互承認する高度な技法を用いながら「親密な関係」を構築している様相が示唆されました。

今後は、車椅子ソフトボールという障がい者と健常者が同じフィールドで行うスポーツのみならず、ガイドと選手、マネージャーと選手などの観点からも検討したいと思っております。障がい者スポーツの今後の発展に少しでも寄与できるよう、また、より高度な研究を行うことができるよう、今回の受賞を機に、一層真摯に研究活動に励みたいと思っております。引き続き皆様からのご指導、よろしくお願い申し上げます。



中村さんと菊会長(事務局撮影)

事務局より

1. 会員動向

体育社会学専門領域の会員数は、2018年10月1日現在 381名です。

2. 会員情報変更

日本体育学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合には、すみやかに「会員情報変更届」(『体育学研究』に添付)を学会本部事務局にFAXまたは封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。

3. 会則および諸規程等の改訂版について

諸規程等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス(松尾) tmatsuo@rikkyo.ac.jp

(水上) mizukami5.h@gmail.com

4. 次回学会大会 および 関連国際学会のご案内

日本体育学会第70回大会

期日：2019年9月10日(火)～12日(木)

会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

国際体育・健康・スポーツ科学会議 2020 横浜(仮称) (略称「2020 横浜国際会議」)

期日：2020年9月8日(火)～12日(土)

会場：パシフィコ横浜ノース

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

あとがき

平成最後のニュースレターをお届け致します。

とにかく自然災害が多い年、そして年号でした。小職も9月に地震に見舞われ、2日間強の「ブラックアウト」を経験しました。これが真冬の出来事だったらと思うと、恐怖に身が竦む思いです。

会員の皆さまも、平成のこの時代に、何らかの災害を経験された方で大多数を占めるのではないのでしょうか？ 本当に大変な時代でしたね。

そのようなわが国において、開催が間近に迫る、「ラグビーワールドカップ2019」や「東京オリパラ2020」、そして「関西ワールドマスターズゲームス2021」などのトピックが、唯一、明るい話題を発信していると言っても過言ではないような気がしています。

スポーツの持つ「力」で、何とか、われわれ国民を元気づけて欲しいと心から願うばかりです。

最後になりますが、このNews Letter 2018 Winter Issueを作成するにあたり、ご寄稿いただきました千葉直樹会員と中村真博会員に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

(石澤 伸弘)